

新たな支援

「私たちが
お待ちしております！」



10月1日からスタートします



ひきこもりや生活困窮などですぐに働くことが難しい人を対象に、「就労前準備訓練事業」「居場所支援事業」を10月1日(木)から始めます。生活リズムや生活習慣の改善、コミュニケーション力・就労意欲向上、安心して過ごせる居場所の提供など、自分のペースで社会参加の第一歩を踏み出せるよう支援します。

■毎週(月)～(金)(祝日は除く)9時～16時

■びーな's ベース(中新田1-11-11 ☎046(292)1122)

居場所支援事業

安心して過ごせる場所を提供します

1 相談する

まずは気軽に相談してください。どんなことでも大丈夫です。一緒に考えていきましょう。



2 案内・説明

利用の案内と事業の内容を説明します。現在の状況や希望を聞きます。



3 利用

安心して過ごせる居場所をいつでも利用できます。話したり、のんびり過ごしたり、自分のペースで活用してください。

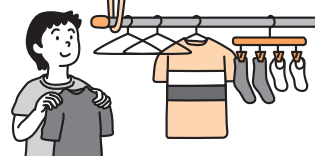


就労前準備訓練事業

働きたいあなたの一歩を支援します

1 生活のリズムを整える

朝決まった時間に行動し、掃除や洗濯、金銭管理など生活の基礎を整えます。



2 ボランティアなどへの参加

できることが少しずつ増えていくことで、自信をつけていきます。希望と状況に応じて、より実践的なプログラムへ進みます。



3 就労支援へ

就労の準備が整ったら、就労支援事業へと移行します。



講演会のお知らせ

ひきこもりへの理解を深め、当事者や家族を支えるための講演会を毎年開催しています。ことしは、専門家やひきこもり経験者を講師に迎え、支援のヒントや関わり方をテーマにした講演会を、12月に開催します。

■12月26日(土)13時30分 場 市役所会議室

費 無料 他 詳細は広報えびな12月1日号をご覧ください 問 生活支援課

当事者の 家族(親)より

実際の声を聞きました

当事者より

息子が中学生の途中から不登校になり、ひきこもりが始まりました。「なぜひきこもっているのか分からない」「育て方が悪かったのではないか」と自分を責める日々。私の年齢が上がっていく焦りもありました。

インターネットで海老名市の窓口を見つけ、就労支援の相談として生活支援課に電話したのが最初のきっかけです。義母から「あなたしかやれる人はいない、市役所へ相談に行きなさい」と言われたことも大きな後押しになりました。

息子の転機となったのは、月1回のフードバンクボランティアへの参加でした。「誰かの役に立てている」という実感が息子の自信となり、責任感や人とのつながりが少しずつ芽生えていきました。

相談員の「焦らなくていい、本人の気持ちを大事に」という言葉で気持ちが楽になりました。一人で悩まず、まず相談へ。親としての自分を責めず、動いてみるのが大切だと思います。

(50代・女性)

最初に相談窓口を訪れた時、気持ちは比較的軽いものでした。その後、1人で通うようになった頃は緊張もありましたが、今ではリラックスして話せるようになりました。帰り道に「今日は話せたかな」とその日を振り返ることもあります。

変化のきっかけは、ボランティア活動への参加でした。最初は「試しに行ってみよう」という気持ちでしたが、1年が経った今では活動後に達成感や「貢献できたかな」という充実感を感じるようになりました。また、ボランティアの予定が入ることで生活にメリハリができ、以前よりも外に出られるようになりました。最近はアルバイトもしてみたいと思っています。

小さなことでもいいので、まずは少しでも動いてみるのが大切だと思います。

(20代・男性)

相談員から 家族の皆さんへ

「私たち相談員と一緒に
少しずつ歩んでみましょう！」

相談員から 当事者の皆さんへ

当事者と向き合い続けること、焦らずじっくり取り組み続けること、そして自分自身を振り返ることは、ご本人やご家族だけではとても大変なことです。一人で抱え込まないでください。「ひきこもり」に即効薬はありません。だからこそ、私たちのような伴走者がいることで、続けていけるかもしれません。これからの道のりを、ぜひ一緒に歩ませてください。

さまざまな理由から、つらい思いを抱えながら過ごしている人も多いのではないのでしょうか。

私たちは、皆さんがこれまで歩んでこられた経験や、今感じている困りごとにしっかり寄り添いながら、一緒に少しずつ考えていきたいと思っています。「それなら行ってみようかな」と思ったら、ぜひ気軽にお越しください。きっと景色が変わりますよ。

